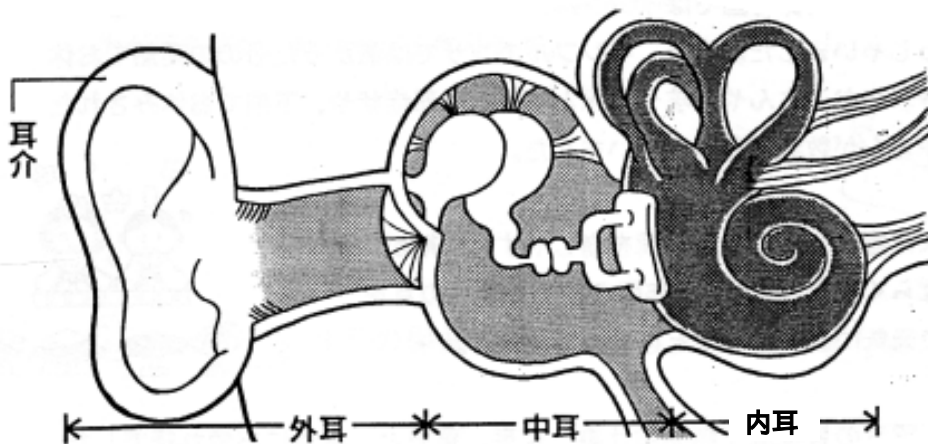


3月3日は耳の日です

3月3日は耳の日です。耳は、音や声を聞く聴覚機能と体のバランスをとる平衡機能に関係する器官です。お母さんのおなかの中にいる頃から、耳は十分に発達していて、声なども聞こえています。



耳の仕組み (耳は、外耳、中耳、内耳から出来ています。)



外 耳

外耳は、耳介(耳たぶ)と外耳道を合わせた部分をいいます。耳介には、音を集める役割があります。外耳道は、耳垢がたまる場所です。

中 耳

外耳道から鼓膜を壁として隔てたところが中耳になります。中耳では、鼓膜が外部からの音で振動し、耳小骨を介して内耳に音を伝える役割をしています。

内 耳

内耳は蝸牛、前庭および三半規管からなり立ちます。蝸牛が耳小骨から伝わった音を聴神経に伝える働きをし、前庭および三半規管では体の平衡感覚を保つ働きをしています。

子どもに多い「中耳炎」とは？

耳、鼻、のどは、耳管という管でつながっています。耳管はふだん閉じていますが、ものを飲み込んだり、咳やくしゃみをしたりとすると開いて、鼻から空気が入ります。子どものうちは耳管が太くて短く水平に近いので、鼻やのどについている細菌が耳管を通して耳の中に入り、中耳炎の原因になることがたびたびあります。生後6か月から3歳くらいの乳幼児に特に多く、6歳頃を過ぎると徐々に少なくなっていきます。

子どもの中耳炎には次の種類があります。

急性中耳炎...風邪のウイルスや菌が、耳管を通じて中耳に感染し炎症を起こします。

痛み、発熱、耳だれを伴ったりします。

滲出性中耳炎...急性の症状がないまま、中耳に分泌液が溜まった状態で、耳が聞こえ

にくくなります。急性中耳炎の治療を中途半端で止めてしまうと、この状態に移行していく場合があるようです。乳幼児の場合は、聞こえが悪くても自分ではわかりません。そのため後ろから呼んでも振り返らないなどの様子がみられたら注意しましょう。



中耳炎の予防・対策法

- *風邪の予防に心がけましょう。(うがいと手洗い、加湿と換気、水分補給、生活リズムの調整、衣服の調整、バランスのとれた食生活等)
- *鼻水をためないように、こまめに拭いたり、かんだりしましょう。場合によっては耳鼻科を受診して鼻水を吸ってもらいましょう。
- *風邪をひいたら早めに小児科、場合によっては耳鼻科も同時にかかりましょう。軽いうちであれば抗生物質を飲むことで治まります。中途半端に服用をやめると炎症が長引いて、滲出性中耳炎に移行したり、慢性化する原因になります。必ず医師の指示に従って下さい。
- *子どもの情緒の安定に心がけましょう。情緒が不安定になると、免疫力が落ち病気に罹りやすくなります。

